２０２４年2月１１日　礼拝説教要旨
ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ３４「神を愛し人を愛する」
エレミヤ１７：５～８、マタイ２２：３４～４０

問９３これらの戒めはどのように分かれていますか。
答　二枚の板に分かれています。その第一は、四つの戒めにおいて、わたしたちが神に対してどのようにふるまうべきかを教え、第二は、六つの戒めにおいて、わたしたちが隣人に対してどのような義務を負っているかを教えています。
十戒では、神さまとの関係、隣人との関係が教えられておりますが、両者は密接に結びついています。神さまとの関係が隣人との関係に表れてくることも言えますし、その反対に隣人との関係が神さまとの関係をそこに映し出すということも言える。ですから両者は互いに試金石のようなものです。それは信仰と生活と言い換えてもよいでしょう。信仰（神さまとの関係）は必ずわたしたちの生活、生き方に現れてきます。信仰問答でも「キリストに接ぎ木された人々が感謝の実を結ばないことなどありえない」（問６４）とありました。良い木に結ばれている人は必ず良い実を結ぶのです。

イエスさまは、律法について、神さまを愛すること、隣人を自分のように愛することであると教えられました。愛は自発的なものです。それが神さまの戒めとこの世の法の決定的に違う点です。十戒は強いられて行うものではありません。そして心から神さまを愛するとき、その愛はいつの間にか隣人への愛に変わります。第一戒はその愛の源を示しています。
問９４第一戒で、主は何を求めておられますか。
答　わたしが自分の魂の救いと祝福とを失わないために、あらゆる偶像崇拝、魔術、迷信的な教え、諸聖人や他の被造物への呼びかけを避けて逃れるべきこと。唯一まことの神を正しく知り、この方にのみ信頼し、謙遜と忍耐の限りを尽して、この方にのみすべてのよきものを期待し、真心からこの方を愛し、畏れ敬うことです。すなわち、わたしが、ほんのわずかでも神の御旨に反して何かをするくらいならば、むしろすべての被造物の方を放棄する、ということです。
問９５偶像崇拝とは何ですか。
答　御言葉において御自身を啓示された、唯一のまことの神に代えて、またはこの方と並べて、人が自分の信頼を置く何か他のものを考え出したり、所有したりすることです。
第一戒は「あなたにはわたしをおいてほかに神があってはならない」です。ここに十戒全体の土台があります。神さまのみを神さまとすること。他のものを神として拝まないことです。注意したいのは、信仰問答はここで偶像礼拝の禁止を扱います。ちなみに第二戒「いかなる像も作ってはならない」を偶像礼拝の禁止と捉える立場もあります。しかしわたしたち改革派の教会では、第一戒は神さま以外のものを神とすることの禁止、第二戒は神さまを偶像化することの禁止と理解します。ですからここでは神さま以外のものを神とする偶像礼拝の罪を考えます。

この神さま以外のものを神とすることは、わたしたちの国ではほとんど当たり前のことになっています。それこそ「八百万の神々」を拝む国です。ある人はそこに宗教的な寛容さがあると言います。中には一つの神さましか認めない一神教は排他的で、だから戦争が起こるのだと言う人もいます。でも本当にそうでしょうか。様々なものを神とする中で分裂が起こり、裏切りが起こり、排除が起こるのではないでしょうか。

昨日は信教の自由を守る日の集会が行われ、特にカルト問題が取り上げられました。カルトの定義として「特定の組織やリーダーが人々に絶対服従するように思いを変えさせ反社会的な行為を行わせる」とありました。重要なのは、特定の組織やリーダーが人々をマインドコントロールして絶対服従させること。その意味で教会もカルト化する可能性があります。例えば、牧師などの一人の人間が権威を持ち、神のようになって教会員を服従させるようなことがあればそれはカルトです。統一協会もそうでしょう。一人の人間を神格化する中で多くの人々が抑圧され被害を受けたのです。

様々なものが神になるというのは、決して寛容さや豊かさを意味しません。多くの神々が乱立し、互いを裁き合うだけの話であります。人間関係もそうではないでしょうか。夫婦の関係を考えてみましょう。夫以外、妻以外の人を愛することがあれば、それは寛容さでしょうか。そこに豊かな愛の形があるのでしょうか。そのような身勝手な感情を貫くことで、それがどれほど相手を傷つけ、周りを傷つけ、関係を壊していくか。それは誰が見ても明らかなことでしょう。神さまを愛することと人を愛することは一つなのです。一人の神さまを愛する人は一人の夫を、一人の妻を愛するのです。一人の神さまを信頼する人は、一人の人をどこまでも信頼できる人です。これもよく言われることですが、日本人だけが無宗教を公言しますが、これは海外では全く通用しません。信頼されません。神さまを信じない人は信頼されないのです。ましてや、あれもこれもいろいろな神々を信じる人など初めから相手にされません。

改めて、今日の問９４、９５を見てください。これはもちろん神さまのみを神さまとするという戒めですが、思い切って、この神さまを皆さんの大切な誰かと置き換えてもいいのです。妻でも夫でも恋人でも。それでもこの文章は通るのです。「唯一まことの神を正しく知り、この方にのみ信頼し、謙遜と忍耐の限りを尽くして、この方にのみすべてのよきものを期待し、真心からこの方を愛し、畏れ敬うことです」謙遜と忍耐の限りを尽くして、この方にのみすべてのよきものを期待する。自分はそのように神さまを愛しているだろうか。人を愛しているだろうか。わたしたちの愛が問われています。

神さまは、そのようにわたしたちを愛してくださいました。謙遜と忍耐の限りを尽くして、へりくだって十字架の死に至るまで従順でありました（フィリピ２：８）。今週からレントに入ります。神さまの愛は十字架で独り子の命を献げ尽くしてしまわれるほどの愛です。神さまからそのようなこの上ない愛をいただいているわたしたちが他のものに心惹かれることがあるはずがないのです。そのように愛された者は必ず神さまのみを愛し、そのように人を愛するのです。それがわたしたちの新しい生き方の土台です。

天の父よ。惜しまず独り子をお与えくださるほどの愛を注いでくださいます幸いを感謝します。どうぞこの愛に応えて、神さまのみを愛し、信頼し生きる者とさせてください。主の御名によって祈ります。アーメン。